

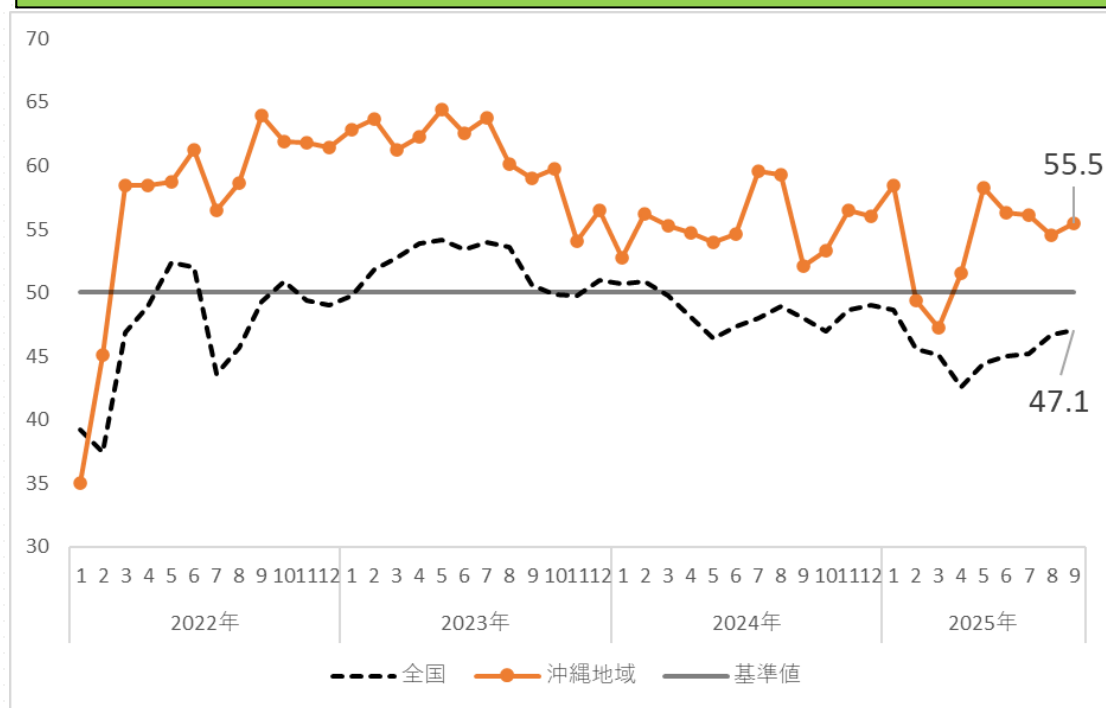
景気ウォッチャー調査 (沖縄地域) ～2025年9月調査～

現状では良好な天気により需要が好調に続いている
先行きでは年末年始に向けた需要増加が期待されている

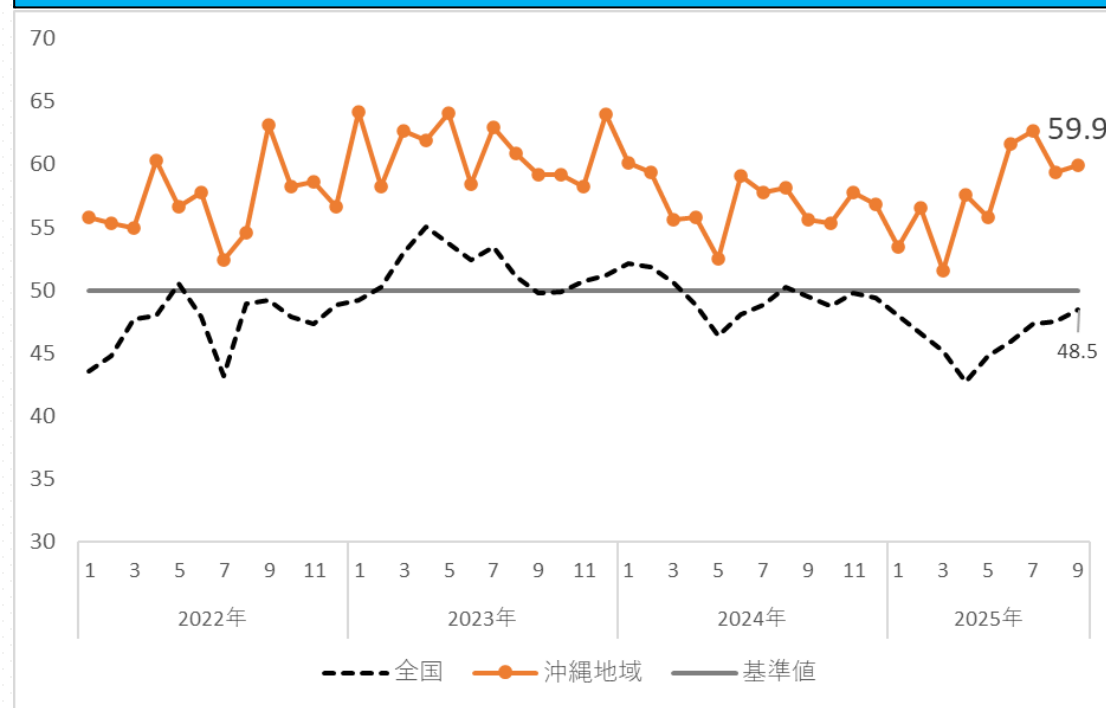
2025年9月調査DI値（季節調整値）

- 現状判断DIは、前月比1ポイント増加の**55.5**と4か月振りの上昇となり、好不調の判断基準となる50を上回り好況である。
- 先行き判断DIは、前月比0.5ポイント増加の**59.9**と1か月振りの上昇となり、判断基準の50を上回っていることから2～3か月後の景気動向も好況が続く見通しである。
- なお、全国の現状判断DI値は46.7、先行き判断のDI値は47.5と共に前月比で上昇したが、判断基準となる50を下回り、不況が続いている。

現状判断DI値（季節調整）



先行き判断DI値（季節調整）



現状判断のコメント①

- 「家計動向関連」では、引き続き、観光客と県内客の需要が好調である。コンビニや観光型ホテルのコメントにもあるように、例年に比べて台風の接近が少なく、来客数が増加したことが好調の要因と考えられる。
- その他の要因として、観光関連では大型レジャー施設需要の継続や学生観光客が増加しており、県内では旧盆需要がずれ込んだ影響もみられた。
- 一方、残暑の影響により秋物商材の動向が鈍いなど、商品によっては天候の影響で購買意欲につながらない状況もみられている。また、地域によっては、工事が終了したことにより工事関係者の利用が減少しているコンビニもみられる。
- 通信会社では、価格により購入を検討する顧客がみられ、購入意欲が落ちている状況がみられる。

<家計動向関連>

◎：良くなっている、○：やや良くなっている、□：変わらない、▲：やや悪くなっている、×：悪くなっている

◎	コンビニ	<ul style="list-style-type: none"> 7～8月は客足が鈍化していたが、9月に入り増加に転じている。台風の接近が例年よりも少ないことも一因とみている。
○	スーパー	<ul style="list-style-type: none"> インバウンドと国内観光客に加えて、県内客の購買意欲が継続している。また、旧盆商戦が9月にずれ込んだため、売上の落ち込み幅が想定よりも小さくなっている。
○	その他飲食店【ファーストフード】	<ul style="list-style-type: none"> 9月に入り学生の観光客が多く、依然として好調である。
○	観光型ホテル	<ul style="list-style-type: none"> 大型レジャー施設需要が継続して追い風となっている。今後夏から秋にかけて台風の影響がなければ、例年よりも堅調になる見込みである。
□	百貨店	<ul style="list-style-type: none"> 残暑の影響により秋物商材の動向が鈍く、購買意欲につながない。
▲	通信会社	<ul style="list-style-type: none"> 顧客の購入意欲が落ちている。価格を気にして購入を検討することが多い。

現状判断のコメント②

- 「企業動向関連」では、窯業土石業において、前月着工予定の工事の遅れにより、受注工事が重複し、一時的な繁忙期となっている。
- その他、食品製造業では、観光関連消費は好調であるが、県内消費において旧盆明けの落ち込みが継続している。
- 「雇用関連」では、人手不足が続いているものの、求人と求職のマッチングがうまくつながらない状況にある。特に建設や不動産などの一部産業では、人手不足と採用難が顕著になっている。
- 一方、観光やサービス業では夏場の繁忙期以降の一時的な求人の落ち着きがみられている。

<企業動向関連>

◎：良くなっている、○：やや良くなっている、□：変わらない、▲：やや悪くなっている、×：悪くなっている

○	窯業土石業	・ 前月より着工が遅れていた受注工事が重複して始まり、一時的な繁忙期により製造が増加している。
□	食品製造業	・ 観光関連の消費は好調を維持しているが、県内消費は旧盆明けの影響で落ち込みが続いている。

<雇用関連>

□	人材派遣会社	・ 求職希望者のキャンセルが多く、マッチングにつながらない。求職者の動きが読めない。
□	職業安定所	・ 前年同月比で求人数は減少しているが、求人者から人手不足についての相談は多い。
▲	求人情報誌	・ 観光やサービス業の夏場繁忙期以降の一時的な求人減少が考えられる。また、建設や不動産など一部産業で人手不足の継続や採用難が顕著になっており、労働需要はあるが供給側が頭打ちの可能性もある。

先行き判断のコメント①

- 「家計動向関連」では、年末年始に向けて観光客や県内客の需要が増加するとの見通しがある。観光関連では、大阪・関西万博の終了により、全国に分散した観光需要の一部が、大型レジャー施設の追い風もあり、沖縄に来ることが期待されている。
- 沖縄では12月に最低賃金上がることから、県内客の消費が増えることへの期待がある。さらに住宅販売では、資材高や人件費の高騰を受入れ、住宅購入を後押ししていることから先行きの期待がみられる。
- 一方、衣料品専門店では、例年にない暑さの影響が続くことで、季節商品の売れ行きが伸びないことを懸念している。また、旅行代理店では、物価高が続き、宿泊などの値段も高くなっていることから個人旅行が増えないとの見通しもある。

<家計動向関連>

◎：良くなる、○：やや良くなる、□：変わらない、▲：やや悪くなる、×：悪くなる

◎	コンビニ	• 年末年始に向けて、人の動きが活発になる。催事の高単価商品等の予約販売が見込める。売上増加に期待している。
○	その他専門店【書籍】	• 年末に向けて観光客が増え、県内では最低賃金が上昇し消費も増えるとみている。
○	観光型ホテル	• 新規大型レジャー施設需要が継続して追い風となって、大阪・関西万博が終了することにより観光需要が全国に分散するとみている。
○	住宅販売会社	• 資材人件費の高騰を消費者が受け入れ始め、住宅購入の意思決定を後押ししている。
□	衣料品専門店	• 今月は例年にない暑さで、新しい季節の商品の売行きが良くない。気候の影響で景気が良くなる気配はない。
▲	旅行代理店	• 物価高が続き、個人の財布のひもが固くなり、宿泊等の値段も常に高いため、なかなか個人旅行が増えないとみている。

先行き判断のコメント②

- 「企業動向関連」では、建設業において、商談中の案件がまとまり、商談量も落ちていないことを踏まえ、良くなる見通しである。対して、広告代理店では、原材料や人件費の高騰の影響などにより、大きく伸長する要因が見当たらないとしている。
- 「雇用関連」では、2027年卒向けの学内説明会の問い合わせがあることから、多くの新卒求人が期待されている。
- 一方、12月から最低賃金が引き上げられることにより、サービス業や小売業などの人件費上昇分を価格に転嫁できない中小企業などが求人を控えることにより、人手不足の深刻化や雇用環境の停滞が懸念されている。

<企業動向関連>

◎：良くなる、○：やや良くなる、□：変わらない、▲：やや悪くなる、×：悪くなる

◎	建設業	• 商談中の案件がまとまるとみており、商談量も落ちていない。技術者の配置をコントロールしながら、良い物件を受注する考えである。
□	広告代理店	• 県内企業の販売促進活動は、原材料や人件費の高騰などの影響もあり、大きく伸長する要因が見当たらない。

<雇用関連>

○	学校	• 2027年卒向けの学内説明会の問合せがかなり増えているため、年内では多くの求人があるとみている。
▲	求人情報誌製作会社	• 12月からの最低賃金が1023円に引き上げられることにより、人件費上昇分を価格転嫁できない中小企業や体力の弱い業種では、求人を控える動きが懸念される。特にサービス業や小売業は影響を受けやすく、人手不足の深刻化や雇用環境の停滞につながる可能性がある。

<用語の説明>

【景気ウォッチャー調査】

- 地域の景気を観察できる立場にある人々から、統計指標だけでは把握できない顧客の様子など日々感じている街角の景気動向を迅速に把握するため、毎月実施されている調査。

【DI値】

- 物価などの景気変動に関する複数の指標から、景気の方向性や各経済分野への波及度合いを示す。値が50を上回ると景気が好況傾向にあり、50を下回ると不況傾向にある。

【季節調整値】

- 季節的な要因で毎年同じような動きをするもの（夏になるとアイスクリームが沢山売れるなど）があることから、前月や前々月と比較する際に季節的な要因を除いた数値。

【現状判断(景気の方向性)】

- 3か月前の景気状況と比較した、今月の身の回りの景気の具体的な状況などの説明。

【先行き判断】

- 2～3か月先の身の回りの景気を今月の景気と比較した際の判断理由。

※本資料は、2025年10月8日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」をもとに作成しています。詳細な結果は下記URLからご確認ください。

<https://www5.cao.go.jp/keizai3/2025/1008watcher/menu.html>